

『心筋梗塞は突然に...』

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



患者さんから「親が心筋梗塞になりました。病院にも毎月通院して、薬もちゃんと飲んでいますが、先月は心電図検査もしていたのに、事前にわからなかったのでしょうか？」といった質問を受けます。

心筋梗塞は動脈硬化が進んだ血管が、ある日突然につまってしまう病気であり、直前まで診察や心電図検査をしても異常が出ないことも多く、予見するのは困難な場合が多いのです。心筋梗塞を起こした人のうち、胸痛の自覚症状が以前からあった人が3分の1、1週間以内に胸痛が新たに出現した人が3分の1、事前に症状が全くない場合が3分の1とされています。特に高齢者や糖尿病患者さんでは心筋梗塞の際に生じる痛みにも鈍くなっており、はっきりとした胸痛が無いまま、いつのまにか心筋梗塞を起こしていたということも良くあります。

心筋梗塞を起こす前兆としては、胸全体の広い範囲に締め付けられるような痛みが5分間程度持続し、安静にしているとおさまってくるというのが典型的な症状ですが、人によってはみぞおちの痛みや首や歯、左肩や手の痛みとして感じる場合もあります。このような症状がある人は早めに医療機関を受診しましょう。また冷や汗を伴う激しい胸の痛みが10分間以上続く場合は心筋梗塞を発症した可能性があります。救急車を呼ぶ必要があります。

心筋梗塞の原因は動脈硬化であり、高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙が動脈硬化を進行させる4大危険因子です。完璧な予見、予防はできなくても、このようなリスクを減らすことはできます。日頃から生活習慣の管理をしておきましょう。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000